

コード	502040202
記入日:	H22.6.10

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川義男
担当者	三村圭司

## 事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	体験交流学習の実施(北相木・広川)事業
----------	---------------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	502	施策名称	生涯学習の充実	項コード	5
基本事業コード	50204	基本事業名称	生涯学習による人づくり	目コード	1
事務事業コード	5020402	事務事業名称	ジュニアリーダーの育成事業	細目コード	
関連計画			法令・条例規則等	新上五島町児童体験交流学習実施要綱	

**計画(PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1) 町内小学5.6年生 (対象2)		(対象指標1) 466人(H21.4.1) (対象指標2)					
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	北相木村児童と夏・冬の相互交流、広川町児童と隔年の交流を行った。 事業実施件数 2件 開催日数 14日 募集回数 1回	*****	*****	*****	実施事業件数2件÷計画した事業件数2件	*****	
		①	実施事業件数	2件	100%		平成21年度
		(達成率分析)	計画どおり事業を実施した。				
		*****	*****	*****	補助金交付件数2件÷補助金申請件数2件	*****	
②	補助金交付件数	2件	100%		平成21年度		
(達成率分析)	計画どおり実施した。						
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
違った環境での体験、交流を通してジュニアリーダーとしての人材の育成を目指すことを目的としている。これにより子ども会の活動が活発化し、人的交流が進むことで地域の活性化が図られる。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		*****	*****	*****	参加者数20人÷募集した参加者数25人	*****	
		①	参加者数	20人	80%		平成21年度
		(達成率分析)	25人の募集を行ったが、20人の応募しかなかった。				
②	*****	*****	*****	*****	*****		
(達成率分析)							

**実施(DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 件	4	4	2	2	2					
	② 件	4	4	2	2	2					
成果指標	① 人	128	123	103	25	20					
	②										
総事業費C(A+B)	千円	7,432	7,229	5,857	1,575	1,372					
直接事業費A	千円	3,932	3,729	3,057	875	672					
人件費B	千円	3,500	3,500	2,800	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.5	0.5	0.4	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	7,432	7,229	5,857	1,575	1,372					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 町の将来を担う子供たちの健全育成であり、当然町が行うべきである。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 時代の変化に対応できる人材の育成のためにも必要な事業である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由 町の将来を担う子供たちの健全育成が目的であり、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由 違った環境でのジュニアリーダーの育成が図られ、人的交流の輪が広がっている。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由 交流参加者を増やすことで交流の輪が広がり向上する余地がある。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由 町の将来を担う子供たちの健全育成に遅れがでる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由 人材育成の柱として実施しているため類似事業との整理統合はできない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 活動を行うための必要な部分を計上しているためこれ以上の削減はできない。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 限られた人件費の中で効率を上げるよう努力を図っているためこれ以上の削減はできない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由 今後受益者負担分を検討する。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	交流参加者を増やすことで交流の輪が広がり有効性を上げることができる。
		効率性	現在2分の1自己負担割合の見直しを図り事業費の行政負担部分の削減に努める。
		課題に向けた改善策	今後も継続して、体験交流を通じたジュニアリーダーの育成を実施に加え、ジュニアリーダーが活躍する場(実践の場)の提供をしていくことを検討する。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
有効性		参加者数が前年度(26人)を下回割り、対象となる児童全体の5%前後となっている。地元開催時に多くの子どもたちが参加、交流できる環境を整備するとともに、交流を通しふれあうことで子どもたちの育成が図られるよう努めること。	
効率性		自己負担のあり方については検討を重ねながら、その経費の執行については、適正に行うこと。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続
		●		事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。